
東北大学陸上競技部

OB・OG通信

2015年No. 4 (2015. 8)

- ・ 第66回全国七大学対抗陸上競技大会
兼第26回全国七大学対抗女子陸上競技大会
 - ・ 男子総合4位、女子総合4位
 - …男子フィールドが2位と健闘!!
 - …男子100mで宮崎幸辰(3)が優勝!!
 - …男子棒高跳で高橋拓実(3)が優勝!! 4m90で部記録更新
 - …男子砲丸投と円盤投で楠哲也(1)が二冠達成!!
 - …女子4×100mで部記録を更新し、3位入賞!!!
-

- ・ 第66回全国七大学対抗陸上競技大会
兼第26回全国七大学対抗女子陸上競技大会 2～16ページ
- ・ 東北総体、宮城県陸上競技選手権大会ほか 17～18ページ
- ・ 自己記録更新者一覧 18ページ
- ・ 今後の予定 18ページ
- ・ 編集後記 18ページ
- ・ 七大学戦決勝記録一覧 19～20ページ

残暑厳しき折、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、8月1~2日に仙台市陸上競技場にて行われました第66回全国七大学陸上競技大会兼第26回全国七大学女子陸上競技大会の結果をお伝えします。

◎第66回全国七大学陸上競技大会

兼第26回全国七大学女子陸上競技大会(8/1~2) ・・仙台市陸上競技場(仙台市)・・

二日間、厳しい暑さの中、七大学が行われました。今年は女子、男子ともに4位という結果でした。去年は台風のため中止になったところもあり、今年は日差しの照り付ける中、少し暑すぎるぐらいではありましたが、部員一同競技に運営に応援にと奮闘しました。

・男子総合結果

順位	大学	得点
1位	京都大学	97点
2位	東京大学	84点
3位	大阪大学	82点
4位	東北大学	55.5点 (T : 19点(5) F:36.5点(2))
5位	名古屋大学	41点
6位	北海道大学	29点
7位	九州大学	16.5点

・女子総合結果

順位	大学	得点
1位	大阪大学	19点
2位	名古屋大学	13点
3位	北海道大学	13点
4位	東北大学	11.5点 (T : 6点(4) F:5.5点(3))
5位	九州大学	10点
6位	京都大学	9.5点
7位	東京大学	4点

▼仙台市陸上競技場にて



●主将、女子主将より
～主将挨拶～

前主将の菅原です。8月1～2日に仙台市陸上競技場で行われました七大戦には、本当にたくさんのOB・OGの皆様が応援に来てくださいました。また、応援だけでなく補助員など運営のお手伝いをしてくださった先輩方も多数いらっしゃいました。この場をお借りして御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

さて、今年の七大戦ですが男子・女子共に4位という結果に終わりました。私なりに理由を述べさせてい

ただきたいと思います。まず、単純に各種目で京大・東大・阪大の競技レベルに及ばなかったことが挙げられます。やはり、上位3校は各種目で取りこぼしなく得点を重ねています。特に優勝した京大は、1種目で複数人が得点をしている場合が非常に多く選手一人一人のレベルが高い印象を受けました。東北大学は、いくつかの種目で優勝・準優勝レベルの選手がいたもののそれに続く得点は少なく、1種目で複数人が得点できる場面が非常に少なかったです。もう一つは、7位(女子においては5位)になる選手がトラック種目を中心に多かったことが挙げられます。惜しいところで得点圏内に入れない、勝ちきれない、そういった小さな取りこぼしがあったことで上位3校との差を大きいものにしていました。そして、こういった流れを最後まで覆すことができなかつたことが最も大きな理由だと思います。優勝やワンツーフィニッシュを決める種目もある中で、得点を惜しいところで逃す場面が多かった今回の七大戦においては、良い結果を残した種目に続いていく「勢い」や、得点を逃してしまう流れを徐々に立て直していく「ふんばり」が足りなかつたように思います。そういう意味で、今回の七大戦は「総力戦」ができなかつた悔しさが大きいです。

しかし、今回1年生ながら優勝、準優勝に輝く選手もいて、若い年代の勢いを感じました。こういった選手同士で刺激し合って、みんなが切磋琢磨できるチームを目指していければ、今回見えた課題も突破できると思います。また、七大戦の「楽しさ」や「熱さ」が後輩たちに伝えられたのは一つの成果だったと感じています。七大戦が近づくにつれてチームがよりまとまり、これまでの対抗戦とは違う、強いつながりをもって大会に臨めたのは七大戦だからこそだと思っています。

最後になりますが、たくさんの先輩方が応援に駆けつけてくださり、熱い戦いをすることができました。本当にありがとうございました。

東北大学陸上競技部 主将 菅原 大志



▲選手宣誓をする菅原(4)(左)と宮間(4)(右)

～女子主将挨拶～

こんにちは、元女子主将の宮間です。先日行われました七大戦は仙台開催ということもあり、非常に多くのOB,OGの皆さんに応援していただきました。本当にありがとうございました。総合優勝が目標でしたが、女子チームの結果は、総合4位でした。皆様のご期待に応えられず、申し訳ありませんでした。

良い結果が出せた選手もいましたが、情けないことに私を筆頭に、思うように結果が出せなかった選手もおり、七大戦の難しさを痛感しました。一方で、今大会では女子4継での部記録が誕生しました。バトンパスが改善の余地があるとのことなので、まだまだ記録更新に期待ができます。また、4継のメンバーもそうであるように、本大会での得点はほとんどが3年生以下であったため、戦力的にさほど落ちることは無く、寧ろ向上していくと思います。来年に向けて、新女子主将の渡邊を中心に、私たちができなかった悲願の優勝を達成し、そしてみんなが七大戦を楽しめるチームにして欲しいと思っています。

最後になりますが、女子主将をさせていただいたことで、今まで以上に部の皆さんと関わりを持って、部全体のことを知ることができ、また、他大学の方々と七大戦の今後のあり方の議論ができました。そして、OB,OGの皆様の多岐にわたる御支援をいただけていることがわかりました。本当にありがとうございました。

今後とも陸上競技部を何卒よろしく願いいたします。

東北大学陸上競技部 女子主将 宮間 志帆

●七大戦各競技を振り返って

☆トラック

男子 100m 予選

1-2 4着 藤井 佳祐(2) 11"12(+0.2)

スタートはまずまずの出だし。前半まではスピードにうまく乗って走れていたが、後半は周りと競って力んでしまい減速気味でもったいなかった。全体としてはスピードもあって悪くない走りだった。

2-2 7着 櫻井 直輝(3) 11"64(-1.6)

非常に暑く、やや向風が吹いている中でのレースであった。スタートはまずまずでしっかり反応することが出来ていた。しかし加速の段階でスピードに全く乗れておらず、顔を上げてからは本来のキレもピッチもなく、他大の選手にぐんぐんと離されていき、最下位でゴール。

3-5 1着 宮崎 幸辰(3) 10"87(-1.1)Q

いいスタートができ、中間疾走で首位に立った。流していたため、追い上げられたが順位を落とすことなくゴールした。

男子 100m 決勝

1位 宮崎 幸辰(3) 10"87(-2.6)



▲優勝した宮崎(3)

スタートが遅れてしまったが、焦ることなくレースができた。中間疾走も以前のようなキレを見せた。シーズンの不調を感じさせることなく優勝した。

女子 100m 予選

1-8 7着 久道 瑛未(2) 13"99(-0.5)

スタートから3歩目くらいでグラつき、加速しきれないまま起き上がってしまった。隣にも一気に差をつけられ、軸がぶれて安

定しない苦しい走りのまま7位でフィニッシュ。

2-7 3着 吉村 梢(2) 13"34(-0.6)Q

スタートでやや出遅れたものの中盤の加速でなんとか前について行きフィニッシュ。3位か4位のどちらか見た目では分からなかったが0.01秒差で3着となり着順で決勝進出。



▲女子100mで決勝に進んだ吉村(2)

女子 100m 決勝

5位 吉村 梢(2) 13"34(-1.6)

予選でのスタートの失敗を改善しスタートからスムーズに加速。中盤から後半にかけて順位を上げ、他の3人とほぼ同時にフィニッシュ。0.02秒差の中に4人がひしめく混戦となり惜しくも5位。

男子 200m 予選

1-6 3着 阿部 耕大(3) 22"06(-0.6)

前半から集中したレースでトップ争いに。カーブ抜けで東大藤田さん、京大紀平さんに抜かされる。疲れが見え始めるものの、後半まで粘り3位でフィニッシュ。

2-4 3着 宮崎 幸辰(3) 21"73(-0.9) q

スタートから流していたが、周りに追い上げられ着順で決勝進出となった。

3-8 7着 竹原 大(4) 23"04(-0.4)

スタートは決まった。しかし加速局面で内側から一気に攻められる。100m付近までピッチを上げて粘るものの、コーナーを出

てからまた一気に離される厳しい戦いだった。後半もがくものの、そのまま7位でフィニッシュ。

男子 200m 決勝

2位 宮崎 幸辰(3) 21"56(-1.0)

1レーンでカーブがきついこともあって、スタートが今一つであった。残り100mでは疲れが見えたか、失速してしまい2位となってしまった。

男子 400m 予選

1-7 5着 菅原 大志(4) 51"34

スタートはピッチを上げて飛び出した。100mから200mは落ち着いたフォームであったが、スピードのある選手に差をつけられてしまった。後半200mで前を追って粘りを見せるもののラストで体が浮き、ピッチが遅くなって最後まで追うことができず組5着でフィニッシュした。

2-7 4着 矢川 省吾(2) 50"93

スタートからの100mは加速し、そのままバックストレートに入るが、150m付近で減速し他大学に徐々に詰められてしまう。後半の200~300m付近で大きく差をつけられたままホームストレートへ。ラスト100mは大きな減速はなかったものの、前半の差を埋めることができずにゴール。スピード感に欠けるレースとなってしまった。

3-4 2着 水戸部 慶彦(2) 49"79

前半からリラックスした状態でスピードを上げていき、足をうまく回転させスピードを落とさずに200mまで走ることができた。300mにかけて疲れも見られたが力むことなく前の選手にしっかりついていきラストにかけて貯めていた力で先頭の選手を追うことができ2着でゴール、決勝進出と49秒台を出すことができた。

男子 400m 決勝

7位 水戸部 慶彦(2) 50"49

予選から決勝進出のために力を使ったこともあり、前半はリラックスして入ったものの200mあたりで疲れが見え始め先頭と離されてしまった。そこからエネルギーを温存しラスト勝負に持ち込んだが、惜しくも得点圏の6位に届かず7位でゴールとなった。

女子 400m 予選

吉村 梢(2) DNS

2-3 2着 加藤 かあら(3) 60"87 Q

前半からスムーズに加速し、少し前の選手についていく。ストライドを伸ばした大きな走りで、リラックスしてゴール。余力を残したまま決勝へと繋いだ。

女子 400m 決勝

2位 加藤 かあら(3) 59"47

大きなストライドで序盤から攻めるが、バックストレートで周囲に遅れをとる。加速に乗り、200mを過ぎたあたりから一気に先頭との距離を縮める。ラスト50mで後ろの選手に追い上げられるも何とか逃げ切り2着でゴール。



▲女子400mで入賞した加藤(3)

男子110mH 予選

1-7 6着 勝井 友樹(1) 16"18(-1.2)

3回ほど機器のトラブルでスタートがやり直しになった影響からか、銃声の反応に鈍くスタートで出遅れた。2台目を越えたあたりから大きく加速していき、テンポものってくる。5台目を越える頃にはスタートでの出遅れを埋め、中盤は最高速度を維持していた。後半疲労からか若干先頭から引き離された。加速とハードリングの技量は十分備わっていると感じられた。残る課題はスタートと後半の速度維持にあるだろう。

2-5 3着 工藤 知央(4) 15"26(0.0) q

スタートしてすぐに上体が起き上がってしまい少し出遅れるも、鋭いハードリングとハードルのインターバルをしっかりと刻めたことで後半にかけてハードルを越えながら加速していき、前を追い上げ3着でゴール、タイムで決勝進出を決めた。

3-4 4着 楠木啓介(2) 16"05(-1.3)

スタートの反応は良かったが、加速がややゆったりとしていて、前半で差をつけられる。後半巻き返したが差を埋めきれず4着。

男子 110mH 決勝

6位 工藤 知央(4) 15"49(-1.4)

予選からしっかりと修正し1台目から遅れずにハードルにとびこむが、インターバルで少し間延びして3台目までに先行されてしまう。そこから立て直しインターバルをしっかりと刻み力強く走って後半にかけてスピードを上げながら前を追うが届かず6着でのゴールとなった。

男子 400mH 予選

1-3 4着 小幡 卓哉(3) 54"99

スタートから前半はスピードに乗っていたがもう少しリラックスしてピッチを上げたいところだった。レース中盤から上体の

振れが大きくなり顎も上がってしまっていたがここまで2位。8台目の逆足でのハードリング後はかなりコースの外側に振られてしまいロスになり、ここで名大に追い上げられ3位に。10台目を越えたあとゴール前で阪大に抜かれ組4位となった。

2-2 6着 佐藤 弘隆(3) 55"66

前半から攻めた走りを見せ、200mまでに上位に位置していたが、そこから攻めた反動か動きが悪くなり、足もあわずハードリングにスピード感がなくなる。そのままずるずると順位を下げ6着でフィニッシュとなった。

3-4 4着 工藤 知央(4) 55"95

鋭いハードリングでスムーズに加速していき前半を走るが、なかなかテンポが上がらず、残り150mほどで上体があがって苦しい走りになってしまい10台目を越えてから前を追うも届かず4着でゴールとなった

男子 4×100mR 決勝

5位 42"10 藤井(2)-櫻井(3)-宮崎(3)-阿部(3)

藤井:スタートの反応は悪くなかったが、うまく加速に乗れず周りとの差をつけられてしまった。今回の1,2走間はアンダーハンドパスで行ったが、詰まり気味だった。

櫻井:バトンの詰まりに加え他大学が速く、じわじわと差をつけられてしまう。3走へのバトンはちょうどいいくらいか。

宮崎:バトンを問題なく受け取る。当日4本目のレースであったが、他大学との差をきっちり詰めていく。バトンは少し詰まったか。

阿部:後半の追い上げで九州大学を抜き前との差を縮めていくがあと一歩及ばず、5位でゴール。

女子 4×100mR 決勝

3位 50"42

渡邊(3)-加藤(3)-吉村(2)-佐々木(1)

渡邊:スタートで勢いよく飛び出す。フォームに若干硬さが見られるが、力強い走りです。2走へバトンを繋ぐ。

加藤:隣のレーンと争いながら、後半でぐんと加速し3走へ。バトンパスで若干のロスが見られる。

吉村:得意のコーナリングでスピードに乗る。内側からの攻めにも動じず、リラックスした走りです。4走へスムーズなバトンパス。

佐々木:3位でバトンを受け取った。そのまま前の選手を追いかけ、後半もスピードを落とすことなく3着でゴール。



▲部記録を更新した女子4×100mR

男子 4×400mR

5位 3'23"29

小幡(3)-阿部(3)-竹原(4)-佐藤(4)

小幡:前半からスピードを出していき、外側の東京大に食らいついていった。200m中盤までのスピードは申し分無かったが、300-400mまでの直線でペースダウン。内側から他大に攻め立てられるが、何とか持ちこたえ、4位でバトンを繋いだ。

阿部:序盤100mで内側から他大に抜き去られ、オープンレーンから後方につくも落ち着いた走りを見せる。200m付近で前に行く大阪大、北海道大が互いに接触し、転倒するアクシデントがあったが落ち着いて回避し、前に行く名古屋大との差を詰め順位は

変わらず4位でバトンを3走竹原へと繋いだ。竹原：スタートからスピードに乗って加速していくが、九州大に粘られ、150m地点で逆転を許す。しかし、前半でつけた勢いを殺すことなく、その後ろを追っていく。そしてラスト100mで一気にスパートをかけ、九州大を抜き去り、アンカー佐藤へと4位でバトンを繋ぐ。

佐藤：800mによる疲労もあったのだろうか、前半から勢いに乗れず、100m付近で再び九州大の逆転を許し、そのまま差を広げられてしまう。そこからなかなか前を追うことができず苦しい状況が続く、後半からラストにかけては後続に追い上げられることは無かったが、順位を1つ落とし、5位でのフィニッシュとなった。



▲健闘したマイルのメンバー

男子 800m 予選

1-3 4着 佐藤 宏夢(1) 1'58"34

最初の200mはリラックスして入り、29秒で最後尾につく。その後、集団のペースがスローになる中でポジションを前に移す。300mを2番手で通過し、そのままのポジションで、400mは59秒で通過。550m付近で東大の加藤が先頭に出てややペースが上がる。それについていくが、動きがやや固くなってしまふ。そのままスピードを上げる加藤にぴったりとついていき、残り100m地点は2番手で通過するが、ほぼ横一線。そこからピッチを上げられない。残り50mで京

大の市川、阪大の藤に抜かれてしまい、4着、1'58"34でフィニッシュした。途中までよい展開でいい位置につけたものの、終盤に課題を残すレースであった

2-3 3着 佐藤 洋介(4) 1'56"85 q

全カレを決めるために前半から牽制せずに突っ込んでいくが、他大の選手もそれに続く。ここで全カレを決めることができなければ七大戦がラストレースとなる。しかし、ラストでも上げることができず全カレ標準をきることができなかった。プラスで決勝には進めた。

3-2 7着 清野 雄太(1) 2'02"93

最初の200を26"で入り先頭に立つ。1周目は57"、先頭で入る。2周目ブレーキがかかり500通過で3人に抜かれ600,700でそれぞれ2人に抜かれ2周目は65"かかり7位でゴールした。

男子 800m 決勝

7位 佐藤 洋介(4) 1'59"75

スタート直後から疲れが見えている様子。東大の軽部が先頭集団を引っ張る中少し離れた位置で6着にぴったりとつくが、ラストスパートで競り勝つことができず惜しくも7位。本来のキレのあるスパートを発揮することはできなかった。

女子 800m 決勝

7位 井出 桃愛(4) 2'28"20

最初の200mから突っ込んだ形でスタートし、400m地点にかけてスピードを落としてしまった。400mの通過は69秒。後半は疲れがみられたが残りの400mはイーブンペースを維持し、ラストも潰れることなくゴールした。

10位 梶山 あずさ(4) 2'32"87

スタートから少し力んだ硬い走りであったが、速いペースで入る。1周目の通過は68'5程度。だが、500m手前から疲れが見え

始め、そこからペースがあがらず、ラスト100mは力のない走りとなってしまっていた。東北インカレでは入りが遅く出遅れ気味だったため、今回の序盤の積極的な入りは評価できるが、やはりペース配分についてはもう少し改善してタイムの短縮に臨んでほしいものである。

男子 1500m 決勝

12位 朝比奈 祐弥(4) 4'07"59

内側3レーンからのスタート、4、5番目のいい位置につける。位置取りなどで体力を使うことなく3周目まで走る。1000m通過手前のあたりから前を狙える位置に移動して行くが、1000から1100m通過のあたりから6番目あたりの順位になる。ラスト1周のあたりから集団が伸び、徐々に苦しくなる。ラスト300からの切り替えについて行くことができず、ペースが落ち、苦しい走りになりそのままゴール。

15位 西京 毅(3) 4'09"61

1周目はトップで通過するが、2周目から集団の後ろへずるずると後退する。懸命に追いかけるも、ラストはそのままペースが落ちてしまい、15着でフィニッシュ。

19位 大野 慎也(4) 4'14"47

1周目、集団は縦長にばらけ、大野は14番程に位置を取る。400mは65秒で通過。500mを過ぎ4、5人を抜き順位を上げるが800m手前で抜き返され順位を下げ800mも65秒で通過する。先頭がペースを上げ、集団は2つに分かれる。相変わらず順位を保ったまま1200mは66秒で通過した。その後もラストを上げることができずフィニッシュ。

男子 3000mSC 決勝

7位 高橋 仙一(3) 9'45"30

8位 南雲 信之介(4) 9'46"06

スタート直後、高橋は4番手、南雲は集団の後方で走る。400mで高橋と南雲が並び、集団のなかほどで一緒に走る。1000mの通過は3'12"。先頭とは2秒差で通過する。先頭集団はまとまっており、二人とも常に先頭を狙える位置にいる。そのまま特に動きがなく、先頭の2000mの通過は6'30"ほど。高橋と南雲もそれから1秒か2秒ほどしか遅れていない。2000mを過ぎて先頭集団がペースアップするが高橋と南雲はついていけない。南雲は6番手で高橋は8番手。ラスト1周、南雲は高橋よりも10mほど前の位置を走るが、ラスト150mで高橋が南雲を抜き、ラストスパートで高橋が南雲に勝つが、得点は獲得できなかった。



▲南雲(4) (中央左) と高橋(3) (中央右)

女子 3000m 決勝

4位 宮間 志帆(4) 10'33"06

スタート後、落ち着いた入りで集団の真ん中を位置どる。しかし、いつもより走りは重く1000m過ぎから少し疲れが見え始める。意地の走りで2000m過ぎまでは先頭集団の中で走るものの、ラスト1000mで飛び出した北大の選手に着いていくことができなかった。最後の直線、キレのあるラストスパートで2位集団の中から抜けだそうとするも、一歩及ばず4位でゴール。

今回はいつもの力強い走りが見られず、また、ラストで珍しく負けてしまい残念だった。今回で女子主将としての走りは最後だが、シーズンはまだ続くので早く復調し、強い走りが戻ることを期待している。

8位 榊原 真璃子(4) 10'58"58

スタート後、榊原が先頭に出て単独走状態になるが、1000m過ぎで北大、阪大、名大、宮間が追い上げる。榊原は宮間の背中を追うが、2000m過ぎから失速。阪大を追うも離され、8着でフィニッシュ。

男子 5000m 決勝

5位 高橋 佳樹(4) 15'07"66

8位 本間 涼介(3) 15'18"95

9位 出口 武志(3) 15'29"01



▲高橋(4)と本間(3)の力走 第二集団の先頭付近、高橋がその集団の後方でレースを進める。400mは71"。1000mの通過は出口、本間、高橋の順で2'58"~3'00"といったところ。1400mを過ぎたあたりで本間が第二集団の先頭に出るが出口は後方へ下がる。2000mの通過は本間が6'00"、出口と高橋が6'02"。2800m手前で三人とも給水をとる。それだけ暑い中でのレースである。3000mは本間、高橋、出口の順で通過する。タイムは9'05"~06"。3000mを過ぎたあたりで出口が集団から遅れ始める。名大、京大の2人が抜け出して本間、高橋は京大と3人で5位集団を形成。出口は苦しい走り。4000mは高

橋：12'08"、本間：09"、出口21"。4000mよりも手前で高橋が前の集団に追いつく。ラスト1周では高橋が5位、本間が7位、出口が10位の位置。最終的に高橋は5位で数年ぶりの男子5000mの得点獲得者となった。

男子 5000mW 決勝

3位 早坂 謙児(3) 22'36"13

七大戦1日目の15:50、OPと同じ日に、今年から対校種目となった5000mWが行われた。正選手は早坂(3)、1月前の記録会で結果を出し、選手に選ばれた。スタートとともに京大、東大(OP)が前に出る。早坂は後ろを気にしつつ、3位集団でレースを進める。東大、京大のOPの集団が前に出るも、早坂は東大の正選手を気にしている様子、1000mの通過は4'20。1000過ぎから北大の正選手が前に出る。3人の集団のペースがあがり、早坂は苦しそうだ。2000過ぎ、北大の正選手が抜け出し、東大と早坂の一騎打ちとなった。ペースの上げ下げがあつたが、早坂は何とかついていき、3000m過ぎから前に出てペースを上げる。東大の選手は離れてしまった様子。苦しそうな顔をしており、たまに注意を受けるが、あまりペースは落ちていない。ラスト500m後ろを振り返り確認するも、ペースを落とすことなく、対校選手3位でゴール。タイムは22'36。東北大の対校初得点を取り、チームに勢いをつけることができた。



▲男子5000mWで入賞した早坂(3)

☆フィールド

男子 走高跳 決勝

3位 田中 祥平(1) 1m93

1m90から始めたが1本目はつつこんでしまい失敗、2回目で修正してクリア。1m93はぎりぎりであったが1回でクリア。1m96は1本目つつこんでしまい、2、3本目は助走スピードを上げられず3回とも失敗した。

最初の5歩の助走リズムが1回1回の跳躍ごとに毎回変わっているのが助走が合えば2m近く跳べるが、合わなければ今回みたいな跳躍になってしまう。また、高さの最初の跳躍でつつこんで跳ぶ癖がある。今後の練習ではスピードにのれるリズムを確立させることと、つつこまない跳躍を常にすることに意識したい。

5位 藤井 佳祐(2) 1m90

1m85からスタートした。1m85：助走が合わず最後の踏切のみだけで跳ぶも余裕を持ってクリアすることが出来た。1m90：1本目は大学に入ってからまだ1回も跳んでいなかったためか意識しすぎ、速度をあげて突っ込んでしまい失敗。2本目は速度を落とし踏み切ることをのみ意識して挑戦し高さが出てクリアすることが出来た。1m93：1本目で1m90と同じような感じで跳べ、何とか高さが出てクリアしたと思ったが安心感のせいかクリアランスを忘れてしまい落としてしまった。2.3本目は速度が無意識のうちにあがって突っ込んでしまい失敗した。

今回大学ベストを更新することが出来たが助走が全然合わないの次大会までに助走を出来るようにしておきたい。

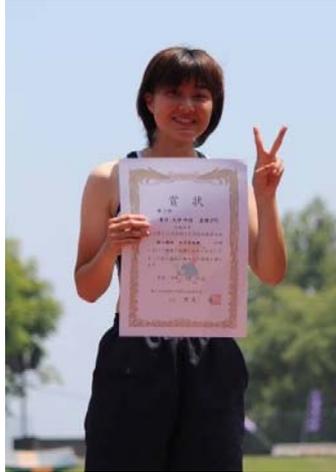
7位 小林 歩夢(1) 1m85

1m75からスタート。1m75、1m80は一本でクリア。しかし1m85を落とし、助走を短くして2本目でクリア。少し踏み切りの直前が詰まっているようだったが、なんとか跳べた感じであった。1m90は高さが出ず跳べていなかった。

これからは助走スピードを調整することと、踏み切りの後傾を毎回しっかり作ることを意識していく。

女子 走高跳 決勝

2位 中村 真璃子(1) 1m53



▲入賞した中村(1)

1m40からスタート。1m40、1m45、1m50は1回でクリア。全体的に体がいつもよりも上がった。1m53：1本目は動きが固くなり、体が上がらずに×。2本目は1m50を跳んだ時のイメージをもって跳躍し、

クリア。1m56：2、3本目でバーにかすり、試技終了。

今回、大学ベストが出ました。しかし1m56は跳べる調子だったのに結局跳べなかったのが悔しいです。今後は安定した助走を走れるようにすることと、より高さのある跳躍ができるように頑張ります。

4位 渡邊 朝美(3) 1m50

1m35からの試技。1m35、1m40、1m45は1本目で成功。1m50は2本目での成功。ここ最近踏み切れないという感覚が強かったが、1m50の2本目などは助走からの流れがよく、少し改善されたようだ。

秋シーズン、来シーズンに向けて練習していき、来年の七大では得点量産種目としたいところである。

男子 棒高跳 決勝

工藤 航平(3) DNS

1位 高橋 拓実(3) 4m90

4m50からの挑戦。動きは小さかったが1回目で成功。続く4m60の1回目は幅のない

跳躍となってしまう上からバーに当たってしまう。安全に跳んだ2回目の跳躍はクリア。バーは4m70へあがる。1回目、この日で一番いい動きを見せ余裕でクリア。この時点で高橋(1)との一騎討ち。ベストタイの4m80、ぎりぎりであったが、1回目で成功。続く4m90、風をうまく使い思いきりのよい跳躍をした。1回目で自己ベストを更新した。バーは5m04の大会新記録へ上がるが、1回目は幅のない跳躍、2回目は振り上げることができず、3回目は高さのない跳躍となり、試合終了。1年3ヶ月ぶりの自己ベスト。

2位 高橋 昇之(1) 4m70

気温が高く体も動き、コンディションは悪くはなかった。4m40は無難に跳んでおきたかったが幅の出過ぎで1本目×。立て直してポールを替え4m60までクリア。4m70は浮きを考慮してポールチェンジ。15.7フィートを今シーズン初めて使ったが、何とか3本目でクリア。4m80は狙ったが順位が既に決まっていたのと単純な浮きの無さでパツとしない跳躍になってしまった。今後は単純に助走を伸ばすことでも記録は狙えるが、このままでもツッコミ動作や助走スピードなど改善すべき点は多くある。



▲1,2位のダブル高橋：拓実(左)、昇之(右)

男子 走幅跳 決勝

13位 今泉 裕真(1) 6m85(-1.1)

気温が高かったため、体がよく動き助走のリズムがうまくとれた。1本目はやや詰まったもののスピードに乗って踏み切ることができて自己ベストの6m85を跳んだ。いいスタートだったが2本目は踏切時にブレーキをかけすぎて6m62、3本目は着地時に左足がすぐ地面に着いてしまっただけで6m52と記録は伸びず。いい流れを作ったのに乗り切れずにもったいないことをした。今後の課題としては助走スピードアップと踏切のリードレッグの動作修正があげられる。

18位 田中 祥平(1) 6m62(+0.5)

1回目助走スピードが足りずに6m42。2回目助走スピードを上げたがまだまだ足りずに6m59。3回目助走をさらに上げたが踏む切り時ブレーキをかけてしまい空中で失速、6m62止まりであった。課題は1本目からマックススピードで行くことと、踏み切り時にブレーキをかけないことである。

19位 大塚 祐貴(2) 6m48(+1.3)

1本目は踏切位置が近すぎて踏み切ることができなかった。2本目は距離的にはベストを上回っていたがほんの少しでフェール。3本目は記録を残しにいいこうとして思い切りがなく記録がのびず6m48。今回は練習の段階から踏切が合わず苦しい試合となった。前回の試合では踏切が遠すぎて合わず今回は修正したものの逆に近すぎて合わなかった。助走のスピードがあがって区間ごとに別の意識を持つことによって毎回助走が変わることが原因だと思う。安定した助走ができるよう練習したい。

女子 走幅跳 決勝

7位 渡邊 朝美(3) 5m03(+2.9)

砲丸投との同時進行でピットの往復などやや忙しかった。エイトに残ってからの試技でようやく5mを越えるという厳しい展開。助走のラストでのスピードダウンが痛かった。最後の試技は少し力が入りすぎて、跳躍距離は一番良かったがファール。鍛練が必要である。

9位 後藤 文子(4) 4m81(+1.7)

1本目：踏み切ることができなかった。踏み切り位置が50センチほど遠い。直前の助走合わせの風の考慮ができていなかった。2本目：スピードを持って踏み切れた。UB。ただ、空中動作に荒っぽさが現れる。3本目：最後の七大戦、ベストエイトをかけた場面であったためか、力が入り、最後のテンポアップの局面で減速。結果はファール。今回の記録更新は全体的な助走スピードの向上とラストのテンポアップにあった。ただ、まだ荒削りな場面や、スピードの向上を目指したい。

男子 三段跳 決勝

5位 須藤 海(3) 14m49(+1.8)



◀跳ぶ須藤(3)

一本目、二本目は助走のポイントが上に抜けてしまい、13m台の跳躍となってしまった。3本目、助走が前方向に進み、ステップとジャンプでブレ

ーキがかからずに14m49の跳躍で4位に躍り出た。4本目以降、拍手を求め記録を狙って行ったが、助走が合わず失敗跳躍となった。結果5位。

安定した助走を身につける必要がある。

16位 宮本 達夫(3) 13m31(+2.3)

今回は踏み切った後に振り上げ足を速く上げることと助走で脚の切り替えを速くすること、腕の振りをイメージ通りに行うことに主眼を置きました。結果、踏み切ったからのリズムは良好で得るものはありませんでしたが、踏み切り板に足が合わなかったため記録は伸びませんでした。助走の安定性は以前からの課題なのですが、なかなか意識してやっている機会がなかったので集中した練習が必要だと感じました。

また、上位の選手と比較するとまだ脚の筋力が足りないと感じました。今後は脚のトレーニングも追加してみます。

17位 今泉 裕真(1) 13m11(+0.7)

3本ともホップで高く上がりすぎてステップが潰れてしまうという跳躍だった。練習不足と脚力不足が原因のように感じた。ホッピング、バウンディング、ボックスジャンプなどを多く取り入れて潰れない接地の感覚をつかみたい。

男子 砲丸投 決勝

1位 楠 哲也(1) 12m45



◀二冠の楠(1)

1投目は背筋に力を入れることができたが押し出しのスピードがそこまで早くなかった。2投目は1投目の問題点を直すことができたが突き出しの場所が悪く、砲丸が回転してしまった。

3投目～5投目は惜しい投げが続いたものの、瞬発力が落ちてきたのでロングにはならなかった。6投目はヤリの練習投擲の為に棄権した。全体の感想としては、かなり調整期間を設けたのに

も関わらず自己ベストが更新できなかったのは非常に残念だった。しかし、試合において、自分の感情を上手くコントロールできた。

7位 大塚 一途(1) 10m62

初の七大戦であり、入賞する望みが十分にあつたために気合いの入った1投目。その1投目がファールとなってから流れが崩れてしまった。グライドが全体として小さく纏まってしまい、思うような記録が出ない。何とか決勝には残り、先輩からアドバイスをいただいて以降の5、6投目は少しずつ本調子に近い投げができたものの、結局は遅すぎたために不本意な結果となってしまった。この敗戦の記憶を忘れず、夏にはグライドをよりファールの少ない形に進化させ、来年のリベンジを果たしたい。

箕輪 純尚(3) NM

競技前の予想から、エイトに残る、得点を取るには自己ベストを大きく超える投げが必要だった。気温も高く体も良く動いてはいたが、NMという結果から分かるように会心の投げはできなかった。とても悔しい結果に終わったが、守りに入ることなく攻めることが出来たのだと思いたい。

女子 砲丸投 決勝

3位 渡邊 朝美(3) 9m77

1投目、いつもよりも冷静に投てき動作ができ、9m77のセカンドベスト。他種目と被っていたため、1本目で残す気持ちが幸いした。2投目はパス。3投目、1本目同様に投げることができ、記録的にも近いところへ着弾。その後ベストエイトでの3本の試技でもいつになく落ち着いて安定した投てきであったが、1本目の記録を伸ばすことはできなかった。以前よりリバース動作がうまくいったが、なぜできたかはわからない状況であるので、次回出場までには自分のものになりたい。

5位 青木 千景(3) 8m86

北大戦では調子が上がらなかったが、七大戦では1投目で8mを記録し、リラックスして試合を展開できた。しかし2、3投とも砲丸に力が伝わらず記録はかわらなかった。4投目からは、グライドの勢いが砲丸に伝わり記録を徐々に伸ばし6投目で自己ベストとなる8m86をマークした。しかし5位であったため得点にはならなかった。今後は技術面を磨いていき得点に繋げたい。

男子 円盤投 決勝

1位 楠 哲也(1) 37m83

最終種目ということで、全体として腰回りに力が入らず、うまくブロックができず、前に流れたりする投げであった。目標としては40mを狙っていたものの結果37m台と非常に残念であった。

16位 大塚 一途(1) 25m75

円盤投には、北大戦でマークした自己ベストの更新を目標として臨んだ。右足での蹴り上げを意識したのだが、1投目ではスピードが十分でなく、2投目では回転がぶれてファール、3投目でも少し腰が引けてしまっており、自己ベストには遠く及ばない記録のまま予選敗退となってしまった。自分にはまだまだターンの技術が足りていないということを感じたため、この夏からはハーフターンからフルターンへの移行を目標としていきたい。

17位 佐藤 雄也(3) 24m74

ターンを最近始めたばかりであったため、3回の試技を通していずれもおぼつかない投げであった。回ってはいるものの円盤を全く加速出来ず、立ち投げよりも悪い記録を出してしまう結果となった。1投目はターンの形が崩れファール。ターン中の足の位置と重心移動ばかりを気にしていたため、2投目では右足で地面を蹴ることなく投げ、円盤が水平に飛んで行ってしまった。3投目では右足での蹴りを意識して投げたため、

円盤に角度が付き少しは記録を伸ばすことができた。課題が多く見つかったので、今後は一つ一つの動きを修正し記録を30m台に持っていけるように練習に取り組みたい。



▲カラフルな投擲レンジャー

男子 ハンマー投 決勝

4位 野尻 英志(1) 34m79

公式戦三戦目。当日は暑い中だったが体の調子は良く、公式練習からリラックスして投げることができた。1投目に2ターンで自己ベストを更新し、残りの5投が全て記録の更新を目的に投げることができた。4、5投目でそれぞれ記録を伸ばしたり、6投目も賭けに出られたりしたのは、試合運びとしては理想的だった。事前の調整や体の調子を見ると、納得はしてもいい記録だと思う。ただ、次はより上位の記録を残したい。夏はフィニッシュを意識したフォームの改善を主眼に置いて、秋の25大戦では自己ベストを大きく更新できるようにしたい。

8位 箕輪 純尚(3) 30m41

1投目から安定した投げをして3投目によりやく30mに到達した。ターンから投げの流れがスムーズに繋がり、上手くハンマー

に力を加えられていた。決勝に進出したものの得点を取ることは及ばなかったが、七大戦という舞台で自己ベストを更新でき、運よくエイトにも残ることが出来てよかった。とても楽しい試合だった。

男子 やり投 決勝

工藤 航平(3) DNS

4位 楠 哲也(1) 55m07

1投目ではクロス7歩のところを9歩で投げてしまったが、それがうまく腰から背筋を使う投げにつながり、大学でのベストを4m更新した。2投目以降は、腰が入らず手投げになってしまった。全体の感想としては、やはり、助走の失速具合が顕著であり、周りから「たち投げ」や「固定砲台」と評されるものであった。ただ、今回の試合で得たものはものすごく大きく、腰と背筋を使ったなげを体に思い出させてくれた。今後、記録が飛躍的に伸びると思います。いや、伸ばしてみせます。



▲暑い中頑張ってくれたマネージャー

◎応援に来てくださった先輩方(敬称略)

伊藤弘昌(S41)、加藤好通(S41)、浅野宣彦(S41)、宮崎鉄男(S43)、藤田文夫(S46)、岩渕明(S47)、小笠原卓(S48)、藤田肖子(S50)、金尾義則(S52)、佐藤健二(S52)、柴田清(S52)、植木浜一(S53)、大浦譲(S54)、渡辺実(S54)、佐藤源之(S55)、大岩章夫(S55)、園盛之介(S55)、遠藤久則(S55)、古澤元一(S55)、島田哲男(S55)、眞山隆徳(S56)、槇山正春(S56)、渡邊朝生(S58)、村橋光臣(S58)、白井健一(S58)、橋本伸二(S60)、三浦得雄(S60)、秋山真一郎(S60)、渡邊裕生(S62)、小林徳彦(S63)、若松正記(H元)、志賀慎治(H元)、彦坂幸毅(H2)、宮野知生(H2)、菅野均志(H3)、渡辺卓(H3)、古澤賢一郎(H4)、中村大(H4)、伊藤繁和(H5)、久保正樹(H5)、菅原靖宏(H8)、武康彦(H8)、久保敦子(H9)、吉田真人(H9)、吉沢協平(H11)、胡摩博之(H14)、石原武雄(H15)、上原準之助(H15)、大石卓司(H15)、工藤圭(H15)、佐藤道由(H15)、今野陽介(H16)、植木洋輔(H17)、植木ひとみ(H17)、鶴石楽(H17)、渡辺美和(H17)、小平圭一(H18)、橋本ちひろ(H18)、畑山峻(H18)、森田清爾(H18)、永井雅人(H18)、鈴木義教(H19)、小釜莉代(H19)、青柳光裕(H20)、五十嵐さやか(H20)、川口亮平(H20)、小林和也(H20)、中嶋啓太(H20)、中島大(H20)、橋本英明(H20)、長谷川翔平(H20)、八木洋光(H20)、相澤直人(H21)、岡本聖司(H21)、加藤聡(H21)、キミロバエレナ(H21)、斎藤純(H21)、島田健作(H21)、染谷拓(H21)、島田瑞希(H21)、藤澤鐘吾(H21)、脇坂美穂子(H21)、伊勢只義(H21)、中野一誠(H21)、今泉卓真(H22)、落合裕槻(H22)、岡本亜加里(H22)、柴田智弘(H22)、飛内茜(H22)、草野深尋(H22)、一ノ倉聖(H23)、岩崎辰哉(H23)、鈴木貴幸(H23)、千葉絵里子(H23)、早坂達也(H23)、本間亮太(H23)、蟻坂まなみ(H23)、赤平和紀(H24)、荒木佳那子(H24)、工藤佑馬(H24)、杉本和志(H24)、鈴木一輝(H24)、高林祐輔(H24)、伊藤亮輔(H25)、及川まりや(H25)、大野良輔(H25)、尾形翔平(H25)、菅野均(H25)、石代剛之(H25)、渋谷知暉(H25)、鈴木はるか(H25)、田桑陽子(H25)、田附遼太(H25)、辻川優佑(H25)、畠山真慈(H25)、房内まどか(H25)、藤井翼(H25)、森部峻介(H25)、八柳暁(H25)、柳澤邦彦(H25)、奥裕之(H26)、三上和樹(H26)、増村巧(H26)、金子修平(H26)、山根由経(H26)、田中悠貴(H26)、村田晃太郎(H26)、南共哉(H26)、深渡慎一郎(H26)、石井花織(H26)、中山なつみ(H26)、宝田拓馬(H26)、向出周太(H26)、岡崎和貴(H26)、保坂佑斗(H26)、村西敏郎(H26)、下島千歩(H26)、酒井利晃(H27)、石川遼(H27)、岡部大輝(H27)、山田健太郎(H27)、伊藤泰彬(H27)、鈴木絢子(H27)、千葉愛里沙(H27)、島軒藍(H27)、西井大樹(H27)、田中直樹(H27)

今年には仙台開催ということで、いつにもまして多くのOB・OGの方々が応援に来て下さいましたが、全員のお名前を把握しきれず、お名前を掲載出来なかった方がいらっしゃいましたら申し訳ありません。また、応援だけでなくたくさんのOB・OGの方が運営への協力や差し入れなどをしてくださり、多くの部員が助けられました。二日間、本当にありがとうございました。

◎東北総体、宮城県陸上競技権選手権大会ほか

七大戦を迎える前にも東北総体や各都道府県の国体予選で部員が活躍しております。各大会で入賞した選手を紹介します。

・第66回東北地区大学総体陸上

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 800m	朝比奈 祐弥(4)	4位	1'57"05
男子 1500m	西京 毅(3)	2位	4'06"78
男子 5000m	酒井 啓一郎(2)	4位	15'58"65
〃	関 俊樹(2)	6位	16'07"16
〃	早坂 謙児(3)	8位	16'13"82
男子 10000m	本間 涼介(3)	1位	32'48"28
〃	酒井 洋輔(1)	7位	33'34"47
男子 110mH	佐藤 弘隆(3)	7位	17"04
男子 400mH	小幡 卓哉(3)	6位	55"06
男子 3000mSC	高橋 仙一(3)	4位	9'48"88
〃	南雲 信之介(4)	5位	9'57"02
男子 4×400m	竹原(4)-阿部(3)-菅原(4)-佐藤弘(3)	5位	3'18"87
男子走高跳	藤井 佳祐	7位	1m85
男子棒高跳	高橋 拓実(3)	1位	4m80
〃	高橋 昇之(1)	3位	4m70
女子 100m	吉村 梢(2)	6位	12"92(+0.5)
女子 200m	吉村 梢(2)	6位	26"86(-1.6)
女子 400m	加藤 かあら(3)	5位	1'00"18
女子 4×100m	渡邊(3)-加藤(3)-吉村(2)-佐々木(1)	5位	50"98
女子走幅跳	渡邊 朝美(3)	8位	4m91(+0.9)
女子三段跳	渡邊 朝美(3)	4位	10m65(+0.2)

・宮城県選手権(7/12~13) …ひとめぼれスタジアム…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 800m	佐藤 洋介(4)	3位	1'57"81
〃	佐藤 宏夢(1)	5位	1'58"77
男子 110mH	楠木 啓介(2)	5位	15"70(+1.0)
男子 400mH	佐藤 弘隆(3)	3位	56"25
男子 3000mSC	高橋 仙一(3)	6位	10'08"16
男子 5000m	出口 武志(3)	4位	15'16"38
〃	高橋 佳希(4)	7位	15'27"63
女子三段跳	渡邊 朝美(3)	6位	10m27(-0.2)

・岩手県選手権(6/26~28) …岩手県営運動公園陸上競技場…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子棒高跳	高橋 拓実(3)	2位	4m80

・山形県選手権(7/10~12) …NDソフトスタジアム山形…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子800m	西京 毅(3)	7位	2'02"07
男子10000m	本間 涼介(3)	5位	31'15"50
男子110mH	工藤 知央(4)	4位	15"02(+2.4)
男子三段跳	須藤 海(3)	3位	13m97(-0.4)

◎自己記録更新者一覧

- ・男子100m
櫻井 直輝(3) 11"24(+0.9) (東北総体)
藤井 佳祐(2) 11"12(+0.2) (七大戦)
- ・男子110mH
本間 大輔(M1) 15"40(+1.3) (神奈川県選)
- ・女子800m
井出 桃愛(4) 2'27"03 (仙台大記録会)
- ・男子5000mW
森 渉(2) 26'01"92 (国立四大戦)
- ・女子5000mW
西條 詩織(3) 27'08"56 (北大戦)
- ・男子棒高跳
高橋 拓実(3) 4m90 (七大戦)
- ・男子円盤投
佐藤 雄也(3) 25m80 (北大戦)
- ・男子ハンマー投
箕輪 純尚(3) 30m41 (七大戦)

◎今後の予定

- ・9月11~13日 第84回日本学生陸上競技対校選手権 …長居陸上競技場(大阪)
- ・9月23日 全日・全女駅伝東北地区予選会 …北上総合運動公園(岩手)
- ・10月2~4日 第44回東北学生陸上競技選手権大会 …仙台市陸上競技場(宮城)
- ・10月10~12 第30回国公立25大学対校選手権大会 …とうほうみんなのスタジアム(福島)

◎編集後記

今年の七大戦は主管校ということで、七大戦を成功させ、優勝もしたいという思いで部員一同七大戦の運営、競技にあたりました。また、まだ七大戦を知らない1、2年生に熱い七大戦を見せたいという思いもありました。結果は男女ともに4位という悔しい結果に終わりましたが、七大戦までの準備や、もちろん大会当日にも運営を取り仕切る役職者や補助員、選手など大会を支えるたくさんの方々の姿を目にすることができ、部の団結を改めて感じました。今年の悔しい気持ちをばねに来年こそは優勝できるよう努力してまいりますので、今後ともご支援、ご声援のほど、どうぞよろしくお願い致します。

文責 副務 出口 武志

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp

七大戦決勝記録一覧

トラック審判長 鹿又 政信
 跳躍審判長 鎌田 孝悦
 投てき審判長 要 昭男
 競歩審判長 川元 進
 記録主任 本田 雄生

日付	種目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位								
8月2日	男子100m 風:-2.6	宮崎 幸辰(3) 岩手・東北大	10.83	稲葉 啓人(4) 東京・東京大	10.95	石田 真也(4) 大阪・京都大	10.99	和田 将志(4) 大阪・大阪大	11.01	藤田 旭洋(4) 東京・東京大	11.09	堤 亘平(4) 山口・北海道大	11.15	泉 悠太(4) 東京・東京大	11.15	藤原 宇央(3) 福岡・大阪大	11.17
8月2日	男子200m 風:-1.0	石田 真也(4) 大阪・京都大	21.41	宮崎 幸辰(3) 岩手・東北大	21.56	稲葉 啓人(4) 東京・東京大	21.62	土屋 佑太(3) 東京・京都大	21.65	藤原 宇央(3) 福岡・大阪大	21.79	藤田 旭洋(4) 大阪・京都大	22.07	紀平 直人(3) 大阪・東北大	22.24	西村 智宏(3) 茨城・東京大	23.27
8月2日	男子400m	小西 慶治(4) 滋賀・東京大	48.17	高塚 誠司(3) 岡山・大阪大	48.33	嶋田健太郎(2) 愛知・名古屋大	49.00	尾野 礼(4) 大阪・大阪大	49.05	庄司 真(5) 大阪・京都大	49.89	森本 淳基(3) 愛知・東京大	50.21	水戸部慶彦(2) 新潟・東北大	50.49	岡部 龍樹(3) 奈良・京都大	51.06
8月2日	男子800m	櫻井 大介(4) 京都・京都大	1:54.14	阿部 嵩大(4) 大分・九州大	1:54.69	藤 諒健(4) 徳島・大阪大	1:55.73	大地(2) 大分・九州大	1:55.81	軽部 智(3) 東京・東京大	1:56.36	渡辺 壮流(2) 福岡・大阪大	1:59.66	佐藤 洋介(4) 宮城・東北大	1:59.75	市川 和也(4) 京都・京都大	2:09.66
8月2日	男子1500m	足立 涼(3) 大阪・京都大	3:55.90	近藤 秀一(1) 静岡・東京大	3:56.05	岡野 颯斗(3) 京都・京都大	3:56.45	三根 亨(4) 兵庫・九州大	3:56.59	妻藤 圭祐(3) 兵庫・九州大	3:56.91	平井健太郎(4) 兵庫・京都大	3:57.17	西尾 文吾(3) 愛知・名古屋大	3:59.09	岩見 直弥(2) 山口・九州大	4:02.41
8月2日	男子5000m	平井健太郎(4) 兵庫・京都大	14:33.12	近藤 秀一(1) 静岡・東京大	14:51.86	國司 寛人(4) 愛知・名古屋大	15:02.20	下迫田啓太(4) 京都・京都大	15:04.56	高橋 佳希(4) 福島・東北大	15:07.66	柴田 裕平(2) 兵庫・京都大	15:12.69	山崎 智裕(3) 佐賀・九州大	15:18.79	本間 涼介(3) 山形・東北大	15:18.95
8月2日	男子110mH 風:-1.4	後藤 佑介(4) 岐阜・大阪大	14.74	岩瀬 累(2) 愛知・名古屋大	15.08	井上 暢起(3) 京都・大阪大	15.11	小野 雅博(3) 香川・九州大	15.12	*1	15.12	工藤 知央(4) 山形・東北大	15.49	杉森 康平(6) 奈良・東京大	15.81		
8月2日	男子400mH	宮原 弘季(4) 広島・東京大	52.20	小田 将矢(2) 愛知・名古屋大	52.31	佐藤 優斗(4) 三重・京都大	53.95	新村 航輝(3) 広島・京都大	54.41	兄井啓太郎(2) 京都・東京大	54.42	田里 康介(1) 京都・大阪大	55.07	岩本 卓也(4) 石川・名古屋大	55.44	石坂 優人(2) 北海道・北海道大	56.98
8月2日	男子3000mSC	岡本 和晃(4) 兵庫・京都大	9:32.57	吉田 広輝(3) 京都・大阪大	9:32.88	長谷川大智(1) 京都・京都大	9:33.36	鈴木 雅斗(4) 愛知・名古屋大	9:33.99	福島 洋佑(3) 東京・東京大	9:36.08	塩見 圭史(3) 大阪・大阪大	9:44.16	高橋 仙一(3) 宮城・東北大	9:45.30	静雲信之介(4) 北海道・東北大	9:46.06
8月1日	男子5000mW	山西 利和(2) 京都・京都大	20:48.78	中川 岳士(2) 滋賀・北海道大	21:41.54	早坂 謙児(3) 富山・東北大	22:36.13	宇野 文貴(3) 富山・東北大	23:37.29	藤本 知志(4) 大阪・大阪大	24:00.09	小山 直洋(2) 兵庫・九州大	30:04.37				
8月2日	男子4×100mR	京都大学・京都 備藤 翼(3) 石田 真也(4) 紀平 直人(3) 林 大祐(4)	40.85 GR	東京大学・東京 泉 悠太(4) 西村 智宏(3) 稲葉 啓人(4) 藤田 旭洋(4)	41.21	北海道大学・北海 渡辺 典仁(2) 岩瀬 累(2) 河辺悦太郎(3) 本村 新(4) 永井 慧(4)	41.98	名古屋大学・愛知 山田 寛喜(3) 上田 寛喜(3) 小田 将矢(2) 濱田 祐成(3) 山下 拓也(2)	42.07	東北大学・宮城 藤井 佳祐(2) 堤 亘平(4) 櫻井 直輝(3) 宮崎 幸辰(3) 阿部 耕大(3)	42.10	九州大学・福岡 前田 高志(3) 浪平 雄佑(3) 濱田 祐成(3) 宮内 隆輝(1)	42.31				
8月2日	男子4×400mR	東京大学・東京 兄井啓太郎(2) 小西 慶治(4) 森本 淳基(3) 宮原 弘季(4)	3:16.20 GR	京都大学・京都 紀平 直人(3) 新村 航輝(3) 岡部 龍樹(3) 櫻井 大介(4)	3:17.24	名古屋大学・愛知 嶋田健太郎(2) 小田 将矢(2) 大藪 悠登(2) 春田 晋作(3)	3:18.58	九州大学・福岡 上田 寛喜(3) 濱田 祐成(3) 吉用 智也(3) 阿部 嵩大(4)	3:20.22	東北大学・宮城 小幡 卓哉(3) 阿部 耕大(3) 堤 亘平(4) 鈴木 久崇(5) 石坂 優人(2)	3:23.29	北海道大学・北海 本村 新(4) 堤 亘平(4) 鈴木 久崇(5) 石坂 優人(2)	3:29.46	大阪大学・大阪 佐野 佑城(2) 高塚 誠司(3) 佐藤 弘樹(2) 尾野 礼(4)	3:29.78		
8月2日	男子走高跳	福原 大輔(3) 神奈川・東京大	1m96	菅井 徹人(4) 宮城・北海道大	1m96	田中 祥平(1) 秋田・東北大	1m93	大賀 春輝(1) 香川・大阪大	1m93	藤井 佳祐(2) 神奈川・東北大	1m90	下田 和樹(3) 秋田・北海道大	1m85	竹田 風馬(2) 京都・京都大	1m85	小林 歩夢(1) 岩手・東北大	1m85
8月2日	男子棒高跳	高橋 拓実(3) 岩手・東北大	4m90	高橋 昇之(1) 群馬・東北大	4m70	五十嵐 俊(3) 大阪・大阪大	4m60	杉山 翔馬(2) 石川・北海道大	4m50	古場暁太郎(4) 大阪・大阪大	4m40	澤 薫(2) 滋賀・京都大	4m30	北 悠汰(4) 鹿児島・大阪大	4m00	珍坂 涼太(2) 大阪・京都大	3m60
8月2日	男子走幅跳	渡辺 祥(4) 岐阜・大阪大	7m60(+3.4) 公認7m18(+1.4)	西村 智宏(3) 茨城・東京大	7m56(+0.8) GR	石田 真也(4) 大阪・京都大	7m48(+1.9) GR	小口 伸(3) 岡山・大阪大	7m17(+2.6) 公認7m13(+1.7)	橋本 太翔(2) 福井・名古屋大	7m15(+3.3) 公認6m91(+1.4)	佐藤 爽汰(3) 北海道・北海道大	7m12(+3.8) 公認6m96(+1.9)	伊藤 裕也(1) 愛知・名古屋大	7m11(+2.5) 公認7m05(+1.1)	吉田 侑弥(3) 奈良・東京大	6m93(+1.1)
8月2日	男子三段跳	渡辺 祥(4) 岐阜・大阪大	15m23(-0.4)	吉田 侑弥(3) 奈良・東京大	14m57(0.0)	山岡 隆央(4) 京都・京都大	14m53(+1.2)	吉村 直也(2) 長野・大阪大	14m49(+1.9)	須藤 海(3) 山形・東北大	14m49(+1.8)	伊藤 裕也(1) 愛知・名古屋大	14m43(+1.2)	藤 悠里(1) 福岡・九州大	14m33(+0.3)	松下 隼人(3) 大阪・京都大	14m18(+0.5)
8月2日	男子砲丸投	楠 哲也(1) 大阪・東北大	12m45	宮野 涼至(6) 石川・東京大	12m33	赤坂健太郎(2) 北海道・北海道大	11m87	山本 裕太(4) 愛知・京都大	11m61	奥村 俊樹(3) 神奈川・東京大	11m54	陳 哲斐(2) 愛知・名古屋大	10m68	大塚 一途(1) 山形・東北大	10m62	吉田 遼(4) 北海道・北海道大	10m42
8月2日	男子円盤投	楠 哲也(1) 大阪・東北大	37m83	西田 亮也(2) 滋賀・名古屋大	34m80	北 悠汰(4) 鹿児島・大阪大	33m23	赤坂健太郎(2) 北海道・北海道大	33m04	宮野 涼至(6) 石川・東京大	32m67	吉田 遼(4) 北海道・北海道大	31m89	金子 漢人(2) 愛知・京都大	31m48	山下 圭二(3) 静岡・京都大	31m16
8月2日	男子ハンマー投	若園 直樹(4) 愛知・京都大	43m64	鍵本 直人(3) 愛媛・東京大	38m20	林 大祐(4) 大阪・京都大	36m09	野尻 英志(1) 長野・東北大	34m79	福井 拓海(2) 大阪・大阪大	33m58	郡 健太(4) 愛媛・東京大	33m44	黒壁 大貴(4) 北海道・北海道大	32m97	箕輪 純尚(3) 栃木・東北大	30m41
8月2日	男子やり投	神田 直仁(4) 大阪・大阪大	65m26	山中 統吾(3) 三重・大阪大	64m78	栗林 篤(1) 長野・名古屋大	55m37	楠 哲也(1) 大阪・東北大	55m07	山本 裕太(4) 愛知・京都大	54m67	奥村 俊樹(3) 神奈川・東京大	53m89	中山 奎吾(1) 熊本・京都大	52m80	加藤 敦貴(1) 岐阜・名古屋大	52m12
対抗得点	男子総合	京都大	97点	東京大	84点	大阪大	82点	東北大	82点	名古屋大	55.5点	41点	北海道大	29点	九州大	16.5点	
	男子フィールド	大阪大	44点	東北大	36.5点	京都大	32点	北海道大	24点	京都大	18.5点	13点					
	男子トラック	京都大	73点	東京大	52点	大阪大	38点	名古屋大	28点	東北大	19点	九州大	16.5点	北海道大	10.5点		

凡例 GR:大会記録 *1:着差あり

トラック審判長 鹿又 政信
 跳躍審判長 鎌田 孝悦
 投てき審判長 要 昭男
 競歩審判長 川元 進
 記録主任 本田 雄生

日付	種目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
8月2日	女子100m 風:-1.6	安藤 江里(4) 福岡・九州大 12.70	武藤 祐希(4) 高知・九州大 13.09	山下真由子(3) 大阪・大阪大 13.32	森田侑実重(3) 愛知・名古屋大 13.33	吉村 梢(2) 宮城・東北大 13.34	内田 志歩(3) 静岡・北海道大 *F7 13.34	藤原 郁美(2) 大阪・大阪大 *F7 13.39	塚越 千弘(1) 神奈川・北海道大 13.67
8月2日	女子400m	坪浦 諒子(2) 広島・東京大 58.76	加藤かあら(3) 宮城・東北大 59.47	脇本沙友美(4) 岡山・大阪大 59.54	内田 志歩(3) 静岡・北海道大 1:00.51	藤森 光世(4) 滋賀・京都大 1:00.76	坂上小百合(3) 大阪・京都大 1:02.63	豊澤みどり(1) 北海道・北海道大 1:03.45	森田侑実重(3) 愛知・名古屋大 1:05.42
8月2日	女子800m	後井 彩(4) 大阪・大阪大 2:14.40	上田江里子(2) 富山・北海道大 2:19.58	岸本 絵理(2) 大阪・京都大 2:21.35	竹平佳菜子(2) 静岡・北海道大 2:24.84	寺田 理絵(3) 三重・大阪大 2:25.28	成田明日香(2) 三重・名古屋大 2:25.67	井出 桃愛(4) 茨城・東北大 2:28.20	藤村柚紀子(1) 岐阜・九州大 2:30.65
8月2日	女子3000m	岡田 千裕(2) 大阪・北海道大 10:22.38	渡辺ゆりか(4) 愛知・名古屋大 10:32.77	森瀬 奏子(4) 大阪・大阪大 *F7 10:32.77	宮間 志帆(4) 千葉・東北大 10:33.06	上田江里子(2) 富山・北海道大 10:38.98	山下 奈央(2) 三重・名古屋大 10:46.75	諸吉 早紀(3) 大阪・大阪大 10:51.21	榑原真璃子(4) 愛知・東北大 10:58.58
8月2日	女子4×100mR	大阪大学・大阪 藤原 郁美(2) 森下 舞(3) 安藤 江里(4) 田村 麻有(3) 山下真由子(3) 50.03	九州大学・福岡 森下 舞(3) 安藤 江里(4) 青木 円花(2) 武藤 祐希(4) 50.14	東北大学・宮城 渡邊 朝美(3) 加藤かあら(3) 吉村 梢(2) 佐々木千歳(1) 50.42	名古屋大学・愛知 岡 愛美(2) 森田侑実重(3) 大西美佐歩(2) 広瀬 美咲(4) 51.43	北海道大学・北海道 塚越 千弘(1) 内田 志歩(3) 上田江里子(2) 古村 初音(3) 52.41	東京大学・東京 笠村 洋子(3) 石丸 夏奈(1) 白形 優依(3) 高橋 奈々(2) 52.63	京都大学・京都 完山 聖奈(1) 金澤和寿美(3) 藤森 光世(4) 山中 遥加(3) 56.02	
8月2日	女子走高跳	林 玲美(1) 大阪・京都大 1m56	中村真璃子(1) 新潟・東北大 1m53		渡邊 朝美(3) 宮城・東北大 1m50	青木 円花(2) 福井・九州大 1m50	塚越 千弘(1) 神奈川・北海道大 1m45	菊武 優奈(1) 大阪・大阪大 1m45	宮川 祥子(3) 愛知・名古屋大 1m40 大西美佐歩(2) 愛知・名古屋大 1m40
8月2日	女子走幅跳	大西美佐歩(2) 愛知・名古屋大 公認5m20(+1.6) 5m40(+4.5)	畑中 杏佳(2) 大阪・大阪大 公認5m23(+0.7) 5m38(+4.5)	今川 尚子(2) 兵庫・大阪大 公認5m34(+1.4) 5m35(+2.1)	金澤和寿美(3) 京都・京都大 公認5m21(+1.3) 5m32(+3.7)	完山 聖奈(1) 広島・京都大 公認4m89(+1.1) 5m11(+4.5)	阿久根清羅(2) 鹿児島・九州大 5m05(+0.7)	渡邊 朝美(3) 宮城・東北大 公認4m94(-0.3) 5m03(+2.9)	白形 優依(3) 愛媛・東京大 公認4m88(-1.0) 4m98(+2.4)
8月2日	女子砲丸投	大西美佐歩(2) 愛知・名古屋大 10m93	塚越 千弘(1) 神奈川・北海道大 10m04	渡邊 朝美(3) 宮城・東北大 9m77	中島 由貴(3) 東京・北海道大 9m58	青木 千景(3) 宮城・東北大 8m86	河内 慶子(2) 愛知・名古屋大 8m48	横山 優花(1) 奈良・京都大 8m23	森田 葵(3) 福岡・大阪大 7m23
対抗得点	女子総合	大阪大 19点	名古屋大 13点	北海道大 13点	東北大 11.5点	九州大 10点	京都大 9.5点	東京大 4点	
	女子トラック	大阪大 14点	九州大 10点	北海道大 9点	東北大 6点	名古屋大 5点	東京大 4点	京都大 2点	
	女子フィールド	名古屋大 8点	京都大 7.5点	東北大 5.5点	大阪大 5点	北海道大 4点			

凡例 *F7:同記録による順位 *1:着差あり